

# Q CARD

病態把握能力向上ゲーム

対象者：病院前救護に関わる全ての人

プレー人数：3人～4人用

## 遊び方説明書（チャレンジ編：Mカード）

### 必要なもの

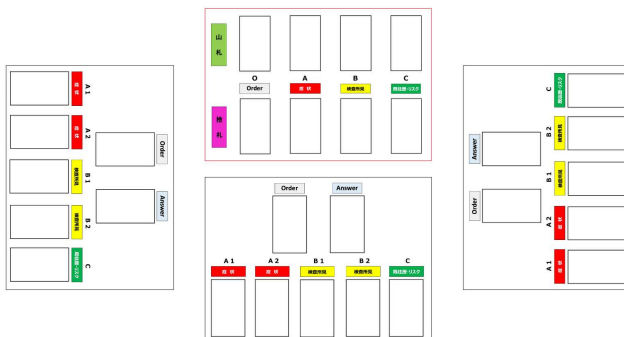
- ・ Qカード（症状、検査所見、既往歴・リスクの3種類のカード）
- ・ オーダーカード（表・裏）
- ・ センターフィールド
- ・ 個別フィールド
- ・ アンサーカード



ダウンロード先

### 対戦方法

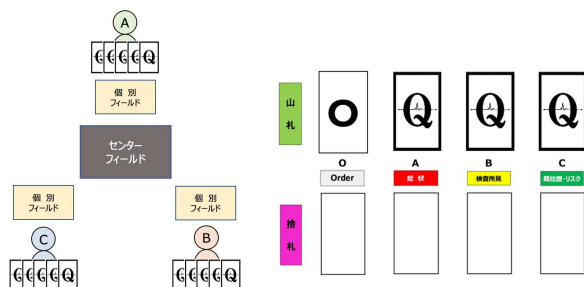
- ① オーダーカードの病名を確認し、時計回りに進行していきます。
- ② その病名に関する症状、検査所見、既往歴、リスクを、他のプレイヤーにさりげなく伝えて集めるカードが揃えば、他のプレイヤーはオーダーカードの内容を回答します。
- ③ 必要なカードが揃ったら、他のプレイヤーが病名を推理・回答します。  
※このゲームは個人戦ではなく、センターフィールドを囲む班ごとの**チーム戦**です。  
各チームが得点を競い合います。



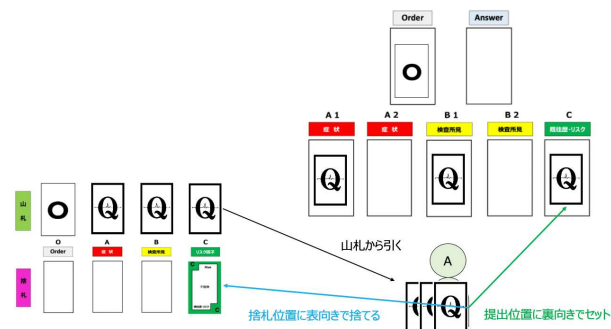
センターフィールドと個別フィールドの置き方 3人プレー用

### ゲーム進行

- ① 山札から、5枚持札にします（症状2枚、検査所見2枚、既往歴・リスク1枚）。



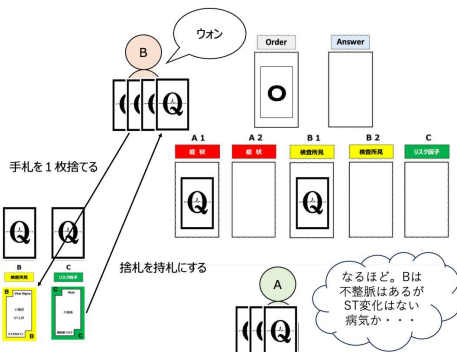
- ② オーダーカードを1枚山札から引き、内容を確認しフィールドマトのオーダーカード位置に伏せて置きます。
- ③ オーダーカードに書かれた病名、病態に合うカードが手札にあれば、フィールドマトに提出します（裏向き）。
- ④ ほしいカードを山札から1枚引き、  
➡ 提出できるカードがある場合、提出位置にカードを裏向きでセットします。  
➡ 提出できるカードがない場合、捨札位置にカードを表向きで捨てます。



### 【ほしいカードを「ウォン」する】（図7）

他のプレイヤーは捨てたカードを「ウォン」と宣言することで持札にすることができます。  
ウォンをうまく使うことがこのゲームの鍵になります。

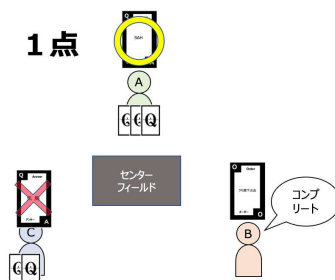
- ① 捨てたカードが自分のほしいカードの場合、「ウォン」と宣言します。
- ② ウォンしたプレイヤーは、手札を1枚捨ててください。
- ③ ウォンしたプレイヤーの左隣のプレイヤーからゲーム再開となります。
  - ・ 複数プレイヤーがウォンした場合、左隣のプレイヤーが優先となります。
  - ・ ウォンすることで、作っている病名や病態を他のプレイヤーに推測させることができます。
  - ・ 個別フィールドの札と交換することも可能です。



（図7）例：Aが捨てた「不整脈」のカードをBがウォンし、Bは「ST上昇」を捨てた

### 【完成すれば「コンプリート」宣言】（図8）

- ⑤ 全てのカードを個別フィールドに置くことができれば、「コンプリート」と宣言します。
- ⑥ 他のプレイヤーはコンプリートしたオーダーカードの内容をアンサーカードに書き、確認します。
- ⑦ 正解者1名につき1ptがチームに加算されます。
- ⑧ フィールドマト上にあるカードを全て捨札に移動させ、ゲームを再開します。



（図8）コンプリートし回答している様子

### 【Mカードの留意点】

- ・ 保有できるカードの枚数は常に5枚なので注意してプレーしてください。
- ・ オーダーカードの内容がわかるような会話や、欲しいカードを口に出すことはできません。
- ・ アンサーカードで回答した際に病名、病態が同じものであれば正解としても問題ありません。例えば、低血糖と記載のあるオーダーカードがあった場合、低血糖を起こす原因である肝硬変などを記載しても問題ありません。
- ・ パスすることはできません。
- ・ 全てのカードが揃い、最後の手札1枚を捨てますが、このカードが欲しい場合、ウォンすることはできません。